



編集後記

記念誌編集委員 高田廣司

NPO法人JDP創立10周年記念事業として、深層心理研究会50年誌が完成をみました。みな様のご協力に心から感謝いたします。記念誌の編集作業を通して気がついたことを記して編集後記と致します。

○ 研究会の50年は三つの時代に区分することができます

第一期「催眠研究の時代」・・・研究会の創始から約30年間です。東京を活動拠点に、山口彰先生の指導の下、「催眠誘導」の理論学習と技術習得が研究会の活動の中心でした。ビジネスマンや医療関係者、教育関係者が会員の多くを占めた時代です。

第二期「ピグマリオン教育観の時代」・・・第一期に続く15年間です。催眠の効果を背景にしながら、ピグマリオン効果を教育現場でいかに活用するかを模索した時代です。活動拠点が名古屋に移り、NPO法人JDP（日本深層心理研究会）が生まれた時代です。幼稚園・学校の先生たちが研究会の中心メンバーでした。

第三期「心身健康法の時代」・・・第二期に続き現在に至るまでの5年間です。佐藤秀理事長を中心に、NPO法人として広く市民に呼びかけ、心とからだの健康法を紹介するセミナーや教室活動を展開した時代です。主婦のみなさんたちがメンバーに加わり、会を支える力となりました。

*この記念誌の内容は、投稿して下さった方々が第二期のみなさんであったため「ピグマリオン教育観」に関する記事が多くなりました。

○ 二つの顔を持つNPO法人JDP（日本深層心理研究会）

10年前にNPO法人の認可を受け、新たな活動を開始したJDPは、その定款の定めるように社会貢献を第一の任務とする顔を持っています。そのため公開教室やセミナーへの参加者の獲得がつねに課題となっていました。一方で従来の「研究会」としての二つ目の顔も失ったわけではありません。しかしこの二つの顔を同時に持つことから、JDPの評価が二通りに別れてしまうことがありました。この記念誌には個人の実践や研究の報告が多く寄せられ、それを見れば「研究会」としての機能は維持されていたとも言えます。しかしセミナーや教室への参加人数を見ると、社会貢献の取り組みが十分だったとは言えません。

「社会貢献活動」と「実践・研究活動」と言う両面を、同じように充実させることの難しさを感じました。